

2月3日は旧暦の新年元旦、いわゆる「春節」とよばれる、中国の人たちにとっての最大行事である「チャイニーズ・ニュー・イヤー」なのである。

そこで、2月2日、いわゆる大晦日にあたるこの日の夜、仕事を終えてチャイナ・タウンに出かけてみた。

ここフィリピンでも、他の東南アジア諸国と同様、多くの中国系の人々が住み着いている。

また、これらの人々がその国の経済を動かしている構図は、ここでも同じである。

さて、そのチャイナタウンは、新年を祝うムードで一色。数多い中華料理レストランのみならず、いたるところにラントランが飾られ赤く輝く。商店街はひときわにぎわい、喧騒の真只中であつた。

そのなかの一角にステージが作られ、そのうえで何やらやっている。

チャイナドレスのお姐さんたちの踊りもあつた。掛け合いで会場を沸かせる漫才もあつた。そして圧巻は、ステージ上で、次から次と繰り出す龍と獅子の乱舞である。画面は、そのなかの獅子が観客に向けて立ち上がり、拍手喝采の様子である。

しかし、何か違和感があるのだ。それは、フィリピンの世界そのものがそこにあるからに違いない。なにせ全て英語の世界であり、漫才も英語、出演案内も、「Dragon Dance Performance by XXXX」で登場し、主催の商店街会長のご老体の挨拶も英語。また、幕間にはロックバンドのボーカルが入る。おおよそ、エキゾチックな中国の世界を期待するものではない。それは、中国の人々がすっかりこの地に溶け込み、また、そのフィリピン人自身が自分たちの催しとしても楽しんでいるように見える。

チャイナ・タウンを去りホテルに戻つた。新年に向けてのカウントダウン、そして、新年を祝し、まわりのいたるビル郡の屋上から花火が打ち上げられた。その鮮やかな閃光は都会の夜空をしばし彩り続け、幻想の世界に誘ってくれた。

新年快樂！！

